

68

發電先在
壽府澤田
局長到着
日十月廿
日件名支
那關係條
約通告方
有無ノ件
(暗)

434

第一九九號(至急)

滿洲ニ於ケル我方ノ條約上ノ權益保全ノ主張ニ對シ支那側ハ大正四年南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約ハ有效ニ非サルコトヲ主張シ其ニ根據トシテ右條約ハ華府會議決議第十ニ依リ通告セラレサルコトヲ指摘シツツアリトノ風説アル處(一)決議ニ依ル一覽表ハ既ニ提出セラレタル次第ナリヤ(二)提出セラレタリトセハ右一覽表中ニハ前記條約ヲ含ムヤ否ヤ(三)本決議ニ依リ各國政府ハ通告ヲ爲シ居レリヤ否ヤ等御取調ノ上御同電請フ

外務省

0481

884

ロロイロ國置ニ禁ヘズ
 雖ニ不降蓋ヤハ未詳ニ許令發給雖許解廢改ニ付テハ條約ニ非テ
 ニ宛テテ條約ニ關シテ所置ニ付限メサケロロイロイロテテ條約ニ非リ

0640

69

被電先在
壽府澤田
局長到着
日十月廿
日件名我
軍引揚狀
況照會ノ
件(贈)

437

第二〇〇號(大至急)

野電合第八五〇號ニ依レハ十月五日附屬地外駐兵數ハ總計約六千ナ
ル趣ニテ其後奉天發本官宛電報第六號ノ外別段多數附屬地内ニ引揚
ケタル情報ニ接シ居ラサル處野電第一一八號ニ依レハ目下附屬地外
駐兵數ハ二三千トノ事ナルカ其後ニ於ケル引揚狀況及正確ナル兵數
至急回電アリ度シ

外務省

8.4

0484

384

ニ其送附シテレシルハ國家等ニシテ報告セラレサレノ後
代ニ送附ナシ(日本地端ハ其對面國ニ領テ亦於ニ強守セラレシ國ニス

外務省

0840

宛先 在壽府澤
田局長
發電 十月二十
件名 附屬地外
駐屯状況

438

暗第一三一號至急
貴電第二〇〇號ニ關シ
參謀本部調査ニ依レハ最近吉林、鄭家屯及巨流河ノ日本軍ハ別電第一三二號ノ通りニテ往電合第八五〇號當時ヨリ七百ノ減少ナリ（附屬地隣接地ノ日本軍ハ往電合第八五〇號ノ當時ヨリハ多少減少シ居ル見込ナルモ委細判明セス目下取調中）而シテ往電第一一八號ニ「附屬地外駐兵數二、三千」トアルハ嚴格ニ言ヘハ「滿鐵沿線外」ニ駐屯スル兵數ヲ意味スルモノナル處各附屬地ニ隣接シ居ル支那街ニ駐在スル部隊ハ往電合第八五〇號三ニテ申進メノ通此等支那街カ附屬地ト一体ノ都會ヲ形成シ居ル關係上目下ノ支那側治安能力ニ顧ミ臨時派出シ居ルモノニシテ本質上鐵道附屬地内ノ守備ト同一視セラ

0485

外務省

宛先 在壽府澤
田局長
發電 十月二十
件名 附屬地外
駐屯状況

438

暗第一三一號至急
貴電第二〇〇號ニ關シ
參謀本部調査ニ依レハ最近吉林、鄭家屯及巨流河ノ日本軍ハ別電第一三二號ノ通りニテ往電合第八五〇號當時ヨリ七百ノ減少ナリ（附屬地隣接地ノ日本軍ハ往電合第八五〇號ノ當時ヨリハ多少減少シ居ル見込ナルモ委細判明セス目下取調中）而シテ往電第一一八號ニ「附屬地外駐兵數二、三千」トアルハ嚴格ニ言ヘハ「滿鐵沿線外」ニ駐屯スル兵數ヲ意味スルモノナル處各附屬地ニ隣接シ居ル支那街ニ駐在スル部隊ハ往電合第八五〇號三ニテ申進メノ通此等支那街カ附屬地ト一体ノ都會ヲ形成シ居ル關係上目下ノ支那側治安能力ニ顧ミ臨時派出シ居ルモノニシテ本質上鐵道附屬地内ノ守備ト同一視セラ

0485

084

冒敵貫通及限討第一三二謀イ共ニ奔湖谷大尉及奔米大尉ニ命付テリ
ルハキキハナリ

代 察 管

0840

宛先
在壽府澤
田局長
發電
十月二十
二日
件名
附屬地外
駐屯狀況

暗第一三二號至急

一 吉林一千五百(一五〇〇) (歩兵十二中隊騎兵一中隊砲兵一中隊)
二 鄭家屯五百(五〇〇) (歩兵三中隊砲兵一中隊工兵一小隊)
三 巨流河二百五十(二五〇) (歩兵二中隊砲兵一小隊)
尙右兵數ハ作戰上ノ秘密事項ニ屬スル趣ヲ以テ參謀本部ヨリ當方ノ
含迄ニ内報シ來レルモノナルニ付右御諒承ノ上利用相成リタシ

440

外 務 省

0487

70

20/9/1
97

發電先在
壽府澤田
局長到着
日十月二
十一日件
名柳條溝
鐵道爆破
部分ノ件

441

第二〇一號ノ一(大至急極秘)

芳澤理事ヨリ

奉天發附大臣宛電報第一〇三八號ノ次第篇ト閱讀シタル處同電ニ依
レハ「危険信號モ聞ニ合ハサリシカ幸ニシテ破損部分短カカリシ爲
列車ハ幾分傾斜シ乍ラ無事通過セリ」トノ陳述アリ列車カ傾斜シツ
ツ通過セリト云フカ如キハ殆ト信シ難キ所ナルモ假リニ事實ナリト
スルモ此ノ程度ノ損害ニテ直ニ砲門ヲ開キ稀有ノ大事件ヲ惹起スル
ニ至レル事情ニ付テハ大イニ疑問ナキ能ハス現ニ「ソウスベリー」
ハ大ナル疑問ヲ懷クニ至リ「自分等外國人ニ取り到底「コンピンシ
ブル」ニ非ス」ト繰返シ居タル趣ナルヲ以テ本國政府ニハ一層詳細
其ノ感想ヲ電報セルナラント察セラレ

外務省

0488

報中報
十月二十
十日二十
田高見
田高見
旅狀

044

會談ニ内閣ノ來レハニマニ付法務部ノ入土時法務部ヨリ
尚ホ其類ハ計測土ノ發露得取ニ關スル感ニ以テ審議本部ヨリ書式ノ
「互前同二百正十(二正〇)」「(其ノ二中間部員一小額)」「
「(其ノ三中間部員一中額工員一小額)」「
「(其ノ四中間部員一中額工員一中額)」「
「(其ノ五中間部員一中額工員一中額)」「
「(其ノ六中間部員一中額工員一中額)」「
「(其ノ七中間部員一中額工員一中額)」「
「(其ノ八中間部員一中額工員一中額)」「
「(其ノ九中間部員一中額工員一中額)」「
「(其ノ十中間部員一中額工員一中額)」「

0440

本館へ丁補ニ書込ム所ナクノシマテモ(海軍)
 天海軍軍來國海軍ノ威キ威懼ヲ爲スノ公等モ主レハ海軍ハ
 此ノ國權ノ用ニシテ限ルハ海軍ノ用ナクハ海軍ノ用ニシテ
 海軍ノ用ニシテ限ルハ海軍ノ用ナクハ海軍ノ用ニシテ
 海軍ノ用ニシテ限ルハ海軍ノ用ナクハ海軍ノ用ニシテ
 海軍ノ用ニシテ限ルハ海軍ノ用ナクハ海軍ノ用ニシテ

C840

第二〇一號ノ二(大至急)

今ヤ右我方ノ根據ニ一大暗影ヲ投セララルニ至リ而モ之ヲ投シタル
 モノハ公平ナル第三國タル米國政府派遣ノ官吏タル以上ノカ影響ニ
 付テハ帝國政府ニ於テ最深甚ナル注意ヲ拂ハルルノ必要アルヘシト
 思考ス今倭外國人側ニ對スル辯明振ニ付林總領事ト軍部トノ間ニ打
 合セ成立セル事ハ眞ニ適當ノ措置ニ相異無キモ一旦既ニ「ソウスベ
 リ」ニ與ヘタル辯明ハ之ヲ取消シ難ク少クトモ米國政府ノ關スル限
 リ其ノ疑問ヲ除去スルコトハ困難ナルヘク不幸ニシテ之カ世間ニ知
 レ渡ル事トモナラハ我方ノ立場ハ全ク失ハルル事トナリ交渉ノ前途
 危惧ナキ能ハス依テ我方トシテハ之カ世間ノ問題トナルニ先ンシ一
 刻モ速ニ事變處理方御決意相成度切望ニ堪ヘス

(0490

發電先
在奉天林
線領事
到着日
十月十九
件名
鐵路燬
線現狀

445

第一〇三七號(極秘)
十八日米國總領事「ハンソン」及「ソースペリー」書記官ハ在奉天
國領事「ビンセント」同伴北平英國公使館「スターリング」一行及
在奉天總領事等ト共ニ鐵路燬破現場及北大營ヲ觀察シ當時ノ指揮官
島本守備隊長ノ説明ヲ總取シ種々質問ヲ發シタルカ其際「ビンセン
ト」ヨリ九月十八日午後十時三十分奉天着ノ長春發列車ノ現場通過
ハ鐵路燬破ノ前ナリシヤ後ナリシヤト尋ネタルニ對シ島本大隊長ハ
鐵路燬破ハ十八日午後十時ヨリ十時半ノ間ニシテ兵士ノ實見談ニ依
レハ長春ヨリノ列車ハ線路燬破後現場ニ來リ日本兵士ノ危險偵察モ
間ニ合ハサリシカ幸ニシテ破損部分短カカリシ爲列車ハ幾分傾斜シ
乍ラ無事通過セリト答ヘタリ右觀察ノ歸路「ソースペリー」ハ同行

外務省

0492

滿洲赤膏大對(土耳其國領事)以土前へ請書アリ

1040

SECRET

Vertical Japanese text, likely a transcription of a document or a list of items, arranged in columns from right to left.

Vertical text on the right margin of the page.

0490

發電先 在壽府澤 田局長 到着日 十月二十 一件名 大綱五 目ノ件

448

第二〇三號 (至急極秘)

當方ニ於テ所謂五項目ヲ理事會幹部ニ内示シ支那側ヲシテ直接交渉ニ向ハシムル様理事會ヲ誘導スルニ努メ來レル次第ハ累次ノ往電ニテ御承知ノ通ナル處理事會幹部ニ於テハ日本側ハ五項目ノ協定成立次第即時撤兵スルノ意嚮ナリヤヲ明確ニ承知シ度キ希望ヲ有シ居ルカ如シ然ルニ貴電第七八號理事會議長宛回答(伍)ニ依レハ帝國政府ニ於テハ大綱ノ協定ヲ了シ從テ國民的感情ノ緩和ヲ見ルニ至ラハ日本軍ハ全部附屬地内ニ歸還セシムル御意嚮ナル處右ハ大綱ノ協定ヲ以テ國民的感情ノ緩和ト看做シ勿論直ニ撤兵ニ移ラレテ差支無キ御意嚮ニシテ大綱協定セララルモ實際國民的感情ノ緩和ヲ見ルニ至ラサレハ撤兵セストカ或ハ大綱協定ト土匪敗殘兵ノ横行等トハ別問題ナ

外務省

0495

目、大
大 附 下 領
將 參
一 日
十 月 二 十
日
田 原 日
藤 野 日
發 露 次

レハ協定成立後ト雖尙生命財産保護ノ見地ヨリ駐兵ノ要アルヤモ知
レスト首フカ如キ御意憐ニハアテサルヘント思考シ右ノ御旨ニテ各
方面ニ應酬シ來リタル次第ニ付右御舎アリ度シ
英米ニ轉電セリ

投 意 書

レハ協定成立後ト雖尙生命財産保護ノ見地ヨリ駐兵ノ要アルヤモ知
レスト首フカ如キ御意憐ニハアテサルヘント思考シ右ノ御旨ニテ各
方面ニ應酬シ來リタル次第ニ付右御舎アリ度シ
英米ニ轉電セリ

外 務 省

72

發電先
在府澤
田局長
到着日
十月二十
件名
「ドラ
モンド」三
案ノ内容
(略)

450

0497

「ドラモンド」三案ノ内示

第二〇四號ノ一(大至急極秘)

二十日朝「ドラモンド」ハ杉村ヲ招致シ現在ノ行詰リヲ打開スル爲
ニハ左ノ如キ三案ノ例レカニ依ル外ナク本案ハ未タ議長トモ協議シ
居ラサルモノナルモ其内第一案ハ殊ニ從來ノ日本ノ主張ヲ谷レタル
モノナルニ付日本側ノ承諾ヲ得度キ旨内詰セル趣ナリ
第一案ハ我方ノ提示シタル五大項目ヲ以テ九月三十日理事會決議ノ
範圍内ニ入ルモノト解釋シ(之ヲ一般的ノ文句例ヘハ「Security」ト云
フカ如キモノニテ云ヒ現ハスコトトス)理事會ハ直ニ日支兩國力撤
兵及右「Security」ニ付直接交渉ヲ開始センコトヲ推演シ一旦理事會ヲ
三週間延期シ三週間後會合ノ上右直接交渉ノ結果ヲ確認スルコトト

外務省

0497

0497

第二〇四ノ二（大至急、機秘）
 第二案
 日本側カ理事會ニ於テ五大項目ニ付原則上ノ協定ヲ遂クル必要アル
 コトヲ述ヘ支那側之ヲ正式ニ受諾スルコトヲ聲明シ然ル後一旦理事
 會ヲ三週間延期ス以下第一案ト同シ
 第三案
 第一案第二案トモ受諾セラレサル場合ニハ公斷理事會ヲ開キ兩當事
 間ニ對シ日支ヲ除キ他ノ理事會全部ノ賛成シタル原案ヲ示シ右案ノ
 各點ニ付意見ヲ表示セシムルコトトス例ヘハ三週間内ニ撤兵スルコ
 トニ付日本ノ意見ヲ表示セシムルカ如シ
 右三案中第一案ハ往電第一九六號ヲ以テ申進シタル解決策ト矛盾セ

外務省

(0499

ス...

0040



サレノミナラス先方トシテハ我方累次ノ要求ヲ充分ニ考慮シ最大限
 度ノ譲歩ヲ爲シタル結果作成シタル案ト認メラルルニ付第一第二案
 ノ何レカヲ御採用相成様致度ク尙右三案ニ關スル説明及當方ノ意見
 ハ即刻追電スヘキモ石不取敢
 在歐米各大使、上海へ轉電セリ

外務省

0500

第三案トシテハ...
 第一...
 第二...
 第三...

0040

十月廿一日
 陸軍省
 出部録
 陸軍省
 陸軍省

第二〇五號ノ二(大至急)
 第一案ニ付テハ本案ハ自分ノ見ル處ニテモ殺モ日本ノ要求ニ合致ス
 ルモノト思ハル即チ日本側ヨリ内示セル五項目中第五點ヲ往電第一
 九六號(「ブリアン」)考案ノ如キ意味トシ九月三十日ノ決議ノ範圍
 ニ入ルモノト解釋シ理事會ハ別段之ヲ討議スルコト無ク又決議案ノ
 表ニ現ハサス唯右五項目ヲ「カバー」スル字句ヲ決議案中ニ入レ之
 ト撤兵トニ付日支間ニ直ニ直接交渉ヲ開始セシムルコトヲ勸告スル
 次第ニテ別段撤兵ニ期限ヲ付スルコト無ク撤兵ハ日本ノ自發的行爲
 ニ待ツコトトシ成ルヘク三週間以内ニ之カ完了ヲ希望スルモ三週間
 後ニ理事會ヲ開キテ右直接交渉ノ結果ニ付報告ヲ受ケントスルモノ
 ナリト説明シ次ニ第二案ニ付テハ本案ハ日本側ニ於テ勢大綱ノ内容

第二〇五號ノ二(大至急)
 第一案ニ付テハ本案ハ自分ノ見ル處ニテモ殺モ日本ノ要求ニ合致ス
 ルモノト思ハル即チ日本側ヨリ内示セル五項目中第五點ヲ往電第一
 九六號(「ブリアン」)考案ノ如キ意味トシ九月三十日ノ決議ノ範圍
 ニ入ルモノト解釋シ理事會ハ別段之ヲ討議スルコト無ク又決議案ノ
 表ニ現ハサス唯右五項目ヲ「カバー」スル字句ヲ決議案中ニ入レ之
 ト撤兵トニ付日支間ニ直ニ直接交渉ヲ開始セシムルコトヲ勸告スル
 次第ニテ別段撤兵ニ期限ヲ付スルコト無ク撤兵ハ日本ノ自發的行爲
 ニ待ツコトトシ成ルヘク三週間以内ニ之カ完了ヲ希望スルモ三週間
 後ニ理事會ヲ開キテ右直接交渉ノ結果ニ付報告ヲ受ケントスルモノ
 ナリト説明シ次ニ第二案ニ付テハ本案ハ日本側ニ於テ勢大綱ノ内容

外務省

外務省

外部ニ示サルコトナリ第一案ニ比シ日本側ニトリ不便多ク
ミナラス支那側ノ(續ク)

8.3

(0503

ナリトシ得ル者ニ第一案ニ比シ日本側ハ日本側ハ日本側ニ對シテ大體ノ内容
第一案ニ對シテ日本側ニ對シテ大體ノ内容
第二案ニ對シテ日本側ニ對シテ大體ノ内容
第三案ニ對シテ日本側ニ對シテ大體ノ内容
第四案ニ對シテ日本側ニ對シテ大體ノ内容
第五案ニ對シテ日本側ニ對シテ大體ノ内容
第六案ニ對シテ日本側ニ對シテ大體ノ内容
第七案ニ對シテ日本側ニ對シテ大體ノ内容
第八案ニ對シテ日本側ニ對シテ大體ノ内容
第九案ニ對シテ日本側ニ對シテ大體ノ内容
第十案ニ對シテ日本側ニ對シテ大體ノ内容
第十一案ニ對シテ日本側ニ對シテ大體ノ内容
第十二案ニ對シテ日本側ニ對シテ大體ノ内容
第十三案ニ對シテ日本側ニ對シテ大體ノ内容
第十四案ニ對シテ日本側ニ對シテ大體ノ内容
第十五案ニ對シテ日本側ニ對シテ大體ノ内容
第十六案ニ對シテ日本側ニ對シテ大體ノ内容
第十七案ニ對シテ日本側ニ對シテ大體ノ内容
第十八案ニ對シテ日本側ニ對シテ大體ノ内容
第十九案ニ對シテ日本側ニ對シテ大體ノ内容
第二十案ニ對シテ日本側ニ對シテ大體ノ内容

2050